

今、この人に **Interview**

TWO RABBITS BREWING COMPANY (二兎醸造株式会社)
バトバートル プレブオチルさん & ショーン コレットさん

その土地のライフスタイルにあった暮らしをしながら、
自分たちのアイデンティティーも失わないように
滋賀で暮らしていきたいですね。



▲バトさん(写真左)、ショーンさん(写真右)のパートナーで
トゥーラビッツ代表の理子さん制作のロゴデザインTシャツを着て。
(二人の間にあるのがビールを仕込む500ℓのドイツ製ブラウマイスター)

■異業種の仕事をしていたお二人が、
クラフトビールを作ろうと思われた
きっかけを教えてください。

◆バト 私は日本の大学を出てそのまま日本
の企業に就職しましたが、自分を高めて
国際的な会社で働きたいと思い、自身のス
テップアップのために大学院に入りました。

●ショーン 私は10年前に1年間の交換
留学で東京に住んだことがあり、大学卒業
後は母国オーストラリアで就職し、弁護
士の仕事をしていましたが、徐々にネゴシ
エーションやプロジェクトマネジメントと
いった、弁護士とは違う仕事の方が多
くなっていきました。バトと同じでステッ
プアップもありましたが、自分で新たな
仕事を立ち上げたいと考えていました。妻
が日本人だったこともあり、日本の大
学院に入りました。

◆バト 二人でビールを飲みながら話
す中で、ショーンがオーストラリアで
クラフトビールを趣味で作っていたとい
う話に興味を持ちました。将来的に
モンゴルに戻ってビールを作れたら
なると、そんな軽い気持ちでショーン
に作り方を教えて欲しいと言ったん
です。

●ショーン だったらモンゴルでは
なく日本で一緒に作ろうと。オース
トラリアはクラフトビールブーム
です。日本にもビジネスチャンス
があるのではないかと思います。日
本で会社を立ち上げるため、昨
年の秋にオーストラリアに戻
ってビール醸造学校に通い
醸造技術者の資格を取得し、
プロのスキルを身につけて
戻ってきました。

■近江八幡に拠点を置いたのは？

◆バト 京都で始めようと思
いましたが、既に数社立ち上
がっていました。それで、
関西を市場にするなら京
都でなくても良いと思い
ました。そして、もう一
つカギになるのはサブ
ライチェーンでした。メ
インの市場、お客さん、
仕入れから出荷までが
どこにあるかというこ
とです。そこで候補に
出た地域は草津でしたが、
近江八幡の八幡掘エ
リアは近江商人の町
の雰囲気がそのまま
残っていて、情緒や
観光地としても賑わ
っている地域であり、
草津からも離れて
いないことから興
味を持ちました。

●ショーン それと近江八幡で
大工をしている知り合
いのアメリカ人に「近
江八幡はいいところ
だよ」と誘われて市
内をこの目で見
たことが大きい
ですね。ここに
ブルワリー(ビ
ール醸造所)があ
ったらいいなと確
信しました。現
在の場所は倉庫
を改装したもの
ですが、大家
さんに自分たち
の情熱や経営
ビジョンを伝え、
貸していただける
ことになりました。
滋賀で美味しい
ビールを作れば
滋賀でナンバー
ワンになれる、
関西でもいい
ビール会社にな
れるのではない
かと思いました。

■とても順調にスタートされていると
思いますが、異国の地でこのように
起業できたのはなぜだと思いますか？

◆バト いろいろアドバイスしてく
れる人が周りにいたからでき
たと思います。ビール製造
免許は4ヶ月半で取得でき
ました。こんなに最短で取得
できたのは稀なことで、私
たちのビジネスプランがし
っかりできていたんだと思
っています。

●ショーン それと日本人より
日本的にやったというこ
とでしょうか。人との付
き合い方などですね。今
の日本の若い人が忘れて
しまっていることかも
知れません。

◆バト 日本の社会人としての
最低限のマナーを学
んで、行動を起こせば誰
にでもできることだ
と思います。「郷に入
れば郷に従え」
ですね。

■滋賀での住み心地はどうですか？

◆バト 滋賀は人々が優しく、
受け入れてられている
感じがします。それに
自然があって子ども
を育てていくのに
いい場所です。ただ、
今悩んでいるのは、
滋賀にはインターナ
ショナルスクール
がないことです。現
在、4歳の子
どもがいます。家
ではモンゴル語
ですが、外では
日本語だけにな
ってしまいます。
国際化でいろ
んな外国の人が
日本で働いて
いるのでインター
ナショナルス
クールが地方
にあってもいい
のではないかな
と思いますね。

●ショーン 私の息子は2歳
ですが、オース
トラリアの教育
はオンラインで
学べるので、
日本の教育と
両方できます。
オーストラ
リア先住民
の言葉には
「big sky country
(大きい空の国)」
という表現
があります。滋
賀も同じ

●プロフィール●

日本でIT関係企業に勤めITコン
サルタントをしていたモン
ゴル出身のバトバートル
プレブオチルさん(33
歳)とオーストラリア
出身で現地法人の石油
関係企業に勤めていた
ショーン コレットさん
(32歳)がそれぞれ次の
キャリアを模索するた
め2016年に京都大学
大学院MBAコースに
在学。そこで意気投
合し、ショーンさん
の妻の理子さんが加
わり、クラフトビ
ールを日本国内で
作る会社を近江八
幡市で起業。今年
2018年に醸造機
器を設置し本格的
に始動。8月3日
に初醸造日を迎
え、現在6種類
のクラフトビ
ールを手がける。

◇問い合わせ先

**TWO RABBITS
BREWING COMPANY**
(二兎醸造株式会社)
近江八幡市宮内町241
TEL:0748-33-8858
<https://tworabbitsbrewing.com/>

ですね。琵琶湖があり空が
広く見えます。だから
住みやすいですね。人
もフレンドリーな感
じがします。滋賀は京
都などに比べ、便利
ではないですが、オ
ーストラリアも同
じく便利ではない
ので大丈夫です。

■今後はどんなビール作りをイ
メージされているのでしょうか。

●ショーン オーストラ
リアの雰囲気やライ
フスタイルも伝え
たいですね。オ
ーストラリア
では、サン
ダウン(Sundowner)
という暮
れ時にビ
ールを飲
みながら
太陽が沈
む様子
を楽し
む習慣
があり
ます。そ
うした
時間、セ
ッション
を楽し
む飲み
方も含
めて提
案した
いです。

◆バト ブームに乗
らず、自分
たちの
コンセプト
にあった
ビールを
作り続
け、その
土地の
ライフ
スタイル
にあつ
た暮らし
をなが
ら、自分
たちの
アイデ
ンティ
ティー
も失わ
ないよ
うに滋
賀で暮
らして
きたい
です
ね。